

D-8					
主題		メンタルコミットロボ「パロ」の利用者・職員への効果について			
副題		「パロ」が生み出した利用者の反応			
キーワード 1	利用者の反応	キーワード 2	メンタルコミット ロボ	研究(実践)期間	6 カ月

法人名・事業所名	社福) 白十字会 特別養護老人ホーム白十字ホーム				
発表者(職種)	東恩納智恵子(介護職員)				
共同研究(実践)者	鳥羽美香(文京学院大学教授)、菊池正尚(介護職員)、小貫公太(介護職員)				

電 話	042-392-1375	F A X	042-392-1255
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	白十字ホームは、創設 53 年を迎えます。「トトロの森」のモデルとなった八国山の麓に建つ定員 170 人の従来型の特養ホームです。併設の白十字病院、デイサービス、老人保健施設等と連携し、地域に開かれた施設として包括的なサービスの提供・利用者の方が「安心・生き生き・こころ豊か」に生活できるような支援を目指しています。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

新型コロナウイルス対策のため、利用者と家族・利用者ボランティアの関わる時間が激減した。直接面会の中止・ボランティアによるクラブ活動の中止。白十字ホームは家族会が充実しており、家族と過ごす時間も多し行事等も家族と共同で行っていた。また、いろいろな活動もボランティアが年間のべ 5,000 人活動しており月に延べ 20 日間の活動を行っていた。そんな中での活動等の中止。ホームで暮らす利用者は気持ちのゆとり・気分転換の機会・家族との癒しの時間等を奪われることになった。職員の業務も増え、利用者との会話も減ってきていた。それが職員のストレスにも繋がっていた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

白十字ホームでは 1 年前から、ICT 導入の取り組みを行っていた。(シルエットセンサー等)、メンタルコミットロボ「パロ」の導入を行う事になる。(1 か月のお試し) 共同研究者の鳥羽教授から、『意図的に特別な目的を持たず、まずは「パロ」に来てもらい利用者・職員がどんな反応を示すのかを見てみよう。』という事で各フロアでの飼育が始まる。数日間のパロの記録の中から次の仮説を立てる。

- ①高齢者が扱いやすいということ、言葉による反応ではなく、鳴き声やしぐさなどによる反応のため、認知症高齢者であっても、交流による満足感が得られるのではないかと。
- ②興味からパロに触れたり話しかけたりしながら笑顔が見えてくるのではないかと。また利用者の横のつながりが生まれるのではないかと。
- ③落ち着かない利用者が、パロと過ごすことにより安心感が生まれ、事故防止につながるのではないかと。
- ④職員の癒しを生み出し、職員のストレスの軽減にも繋がるのではないかと。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・メンタルコミットロボ「パロ」を各フロアー1台ずつ導入した。(5フロアー5台・1か月のレンタル)・各フロアーに「パロ」担当の職員(=飼育員)を任命する。
 - ・毎日フロアーで使用し、その様子を記録する。利用者の様子だけでなく職員の様子も記録する。・1か月の成果をまとめる。・このまとめを受けて次回5か月間のレンタルが決まる。
 - ・引き続き飼育員が中心となり飼育開始。
 - ・2回目のレンタル期間の1か月を過ぎたところで職員に対してアンケート調査を行う。58名が答。(64%の回収率)
- ①利用者にとって、職員にとって導入しての変化はなにか。結果ホームにパロは必要か。

《4. 取り組みの結果》

- ・アンケートの回収の結果

<利用者には何らかの変化が見られた。91%>

①笑顔が増えた。80%

②かわいがる行為が見られた。60%(なでる。声をかける。世話をする。抱っこする。背中をトントンする。子守唄を歌う。心配する。)

③利用者同士の会話が増えた。8%

利用者の自発的な言葉が聞かれた。効果を期待していなかった利用者の反応を見つけることが出来た。(限定した使い方をしなかったため、予想外の成果を見つけることが出来た)

④職員が癒された。48%

《5. 考察、まとめ》

- ・感染対応の中、人と行き来が減り、利用者が人と触れ合う時間が減ったことは間違いない。その中で、パロがホームにやってきたことによりパロと利用者に関わる時間が持てた。言葉を発しない「パロ」に、利用者が話しかけかわいがる。そして笑顔が出る。その笑顔を見た他の利用者、そして職員の笑顔が出る。この連鎖反応が一番の成果です。
- ・今後はこの成果を数的にあらわせるものなのか研究を進めていきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

高齢者福祉施設における(ICT)・介護ロボットの活用と専門職の役割 海外との比較を通じた検討 報告書 2021年3月 文京学院大学・白十字ホーム

《8. 提案と発信》

・白十字ホームでは、介護機器に関してリフター等の移乗機器、入浴機器など直接介護の場面で必要とするものに関しては導入が行われてきた。しかしメンタル面でのロボット等には関心を持つことがなかった。今回は特に感染症対応の中で減少した利用者の人との交流・ふれあい・関わり合いに対してパロを通じて多くの発見、そして気づきが生まれた。しばらく続くであろうこの体制に対してパロを一つの媒体として引き続き取り組んでいきたい。そして「パロ」は利用者そして私たち職員に、一緒に笑顔になろうと現れた救世主でもある。人間では出来ない関り、違うアプローチのアイテムであり今後もパロと一緒に利用者の笑顔を引き出したいと思う。